

# 日中交流における漢字の働き： 文章理解度の測定調査をもとに

廖麗菲

## 1 研究の背景及び目的

漢字は中国で発明されてから3000年以上を経た。歴史上、中国と日本だけでなく、韓国、ベトナムなど広い地域で使われており、東アジア及び東南アジア諸民族間の交流に重要な役割を果たした。近代に入って、ベトナム語では漢字の代わりにローマ字表記を採用し、韓国においてもハングル文字を採用し、日常生活に漢字は殆ど使わなくなった。しかし、漢字は現在に、中国、日本、シンガポール等世界中にいる3000万人以上の華僑の間で、現在も使われている。

20世紀の60、70年代から日本、韓国、台湾、香港、シンガポール等アジア諸国と地域の経済は急速に発展してきた。特に中国では、近年の改革開放政策により経済は急速に成長し、21世紀に入ると、世界中で最も活力のある市場とされており、日本、韓国等アジア諸国だけでなく、欧米諸国の企業も中国で事業を起こしている。また、APEC 諸国の経済も大きな発展が期待されている。このような経済の発展及び経済のグローバル化により、各国間の交流はますます頻繁になり、中国大陸、台湾、日本、韓国及び華僑の多いAPEC 諸国といった準漢字圏の交流における漢字の働きが大いに期待されている。

しかし、準漢字圏といっても、中国語を使う国と地域を除く、日本と韓国では漢字を表記の符号として用いているだけで、言葉及び文化自身はまったく独立的なものである。日本を例として考える。日本では初めの遣唐使が唐から漢字を持ち帰り、漢字は日本の文化、政治及び日常生活の諸方面に大きな影響を与えた。近代に入って、日本は中国より早く欧米諸国から先端的な科学技術を習って近代化された。その後、漢字を通じて、日本から中国への文化の逆輸出が行なわれた。日本語と中国語は言語学上まったく別の言葉であり、文法は大きく異なる。しかし、上述のように、長い歴史中の文化交流により、日本語にある多くの単語は中国語の中で同じ、あるいは近い意味を持っており、単語単位で理解する場合には、大きな障害はないと考えられる。また、漢字は単なる言葉を記す符号ではなく、漢字一つ一つが意味をもっているし、日本語における名詞の構成法は中国語と近いので、単語の形が多少異なっても、意味の推測ができると考えられる。このように、漢字の働きは非常に複雑なものであると考えられる。

20世紀の90年代からITの時代が訪れ、21世紀は情報の世紀と言っても過ぎない。漢字は情報を運ぶ媒体の一種として、近年、その研究が重視されつつある。例えば、荻野綱男及び平田悦郎の研究が挙げられる。

Internet を主とするIT時代において英語は重要な働きを果たしている。しかし、文化は多様化になるべきであり、漢字の日中交流に与える影響について定量的に把握することは、今後の言語政策、IT生産品の開発等に重要な役割があると考えられる。

本研究は以上の背景を踏まえて、漢字の日中交流における働きを定量的に把握する試みとして行なわれた。

## 2 研究の方法

本研究は日中交流における漢字の働きを考察するために、アンケートによる調査法を採用した。調査は、日本人と中国人を調査の対象として、それぞれにアンケート調査を行い、日本人に対し、中国語で書かれた短い文章を読ませ、文章の内容について質問を提示し、その回答から文章に対する理解度を定量的に評価する。同様に、中国人調査対象に対し、日本語で書かれた文章を読ませ、質問を回答させる。日本語と中国語は言語学的に異なる語族に属するので、漢字がなければ、文章についてまったく理解できないと考えられるので、質問に対する正解率より漢字の働きを把握することができると考えられる。

### 2.1 文章の選定

文章の内容によって理解の難易が異なると予想されるので、政治、経済、社会と文学等の各方面に分けて文章を選定すべきであるが、今回は、短時間に4つの方面の適切な文章を捜すことは困難であると判断し、アルク社により発行した「日本語ジャーナル」と「中国語ジャーナル」及びインターネットニュースから、政治、経済、自然災害などの社会ニュースを中心に、長さ300文字程度の中国語文章と日本語文章を各8篇選んだ。文章の選定基準は以下のとおりである。内容的に簡単で、自国語で書かれていれば誰でも理解できる。日本語文章の選出については、中国語にはカカナとヒラガナがないので、文章の理解上の影響を最小にするために、なるべくカカナの少ない文章を選んだ。特に、キーワードが外来語である文章を避けた。漢字の働きをより全面的に把握するために、選出した文章はなるべく社会生活の各方面をカバーする。

## 2.2 質問の作成

調査対象の文章に対する理解を把握するために、次の三種類の質問方法を採用した。

- ・ 事件などに関する文章について、「何処」、「何時」、「何事」、「何故」と「誰」等をキーワードとして質問を展開する。例えば、日本語文章の4篇目の文章（添付資料を参照）について、「何事が起きたか」、「誰が誰に暴力を加えたか」、「誰が死亡したか」、「誰が暴力を加えなかったか」のような質問をした。

- ・ 数字あるいは時間に関する単語が多い文章については、数字及び時間について集中的に質問を展開する。例えば、日本語文章の2篇目の文章について以下の質問をした。(1)何時「全国高齢者名簿」を発表したか。(2)現在、100歳以上の高齢者は何人いるか。(3)100歳以上の女性は何人いるか。(4)100歳以上の男性は何人いるか。

- ・ 以上の二つのタイプの特徴を有する文章について、「何事」、「何処」、「何時」、及び数字と併せて質問をする。例えば、日本語文章3について、まずは「何を発生したか」、次に「何処に発生したか」、「何人が死亡したか」、「何人が行方不明になった」等の質問をした。中国語文章7もこのタイプである。

アンケートは四分法を採用した。即ち、質問ごとに4つの回答を用意し、被調査者にこの4つの回答から正しいと思うものを選択させるような方式を採用した。

## 2.3 新漢字（簡略漢字）の処理

漢字は中国から日本に伝わってきたが、長い歴史の中で各自の変遷が見られる。漢字の欠点とも言えるが、一部分の漢字の画数が多すぎて、勉強及び筆記上不便である。そのため、日本も中国も漢字の簡略化を図り、漢字を改造している。特に中国では1956年に「漢字簡化方案」を国務院により公表され、544字の新漢字（簡略漢字）と部首54個が公表された。簡略された漢字の中に、「語」「？」、「經濟」「??」など新旧漢字が構造的に似ているものもあるし、「歴」「？」、「發」「？」など全く似ていないものもある。後者は日本の読者にとって認識できないはずである。また、台湾、香港、シンガポール等国と地域は新漢字を使わないので、近年、文化交流などのために、旧漢字が民間で復活する傾向があり、高校卒業の人なら、殆ど新旧漢字の両方が読める。中国語の新漢字と比べて、日本語の新漢字は簡略度が低く、中国人にとって認識するのは殆ど問題にならない。以上のことを考慮し、中国語文章にある新漢字の内日本語の漢字と異なるものは旧漢字に直した。

## 2.4 他のアンケート項目の設定

人間の推理能力と認知能力は年齢、学歴、外国語経験の有無、あるいは職業等と関係がある。例えば、大学の教授は教育レベルの低い田舎の御婆さんより推理能力が高く、大学卒業者は中学卒業者より推理能力が高いと一般的に考えられる。アンケートを作成する時、このようなことを十分に考慮し、後で詳細に分析するために調査対象の性別、年齢、最終学歴、職業及び外国語経験をアンケートに明記するようにお願いした。

## 3 作成したアンケート

作成したアンケートを添付資料に示す。

日本人を調査対象とするアンケートは8篇の文章を採用した。文章の平均長さは180文字で、総文字数は1440字である。内容で分けると、8篇の文章のうち、社会生活に関する文章2篇、文化教育関係の文書2篇、科学技術関係2篇、経済関係1篇及び自然災害に関するニュース1篇である。ここで例として第5篇の文章と質問を次に示す。

?????: ?????? 240????????????????????, ????, ????  
???, ??? 40?????,  
????????????????????????????????????, ?????, ??????, ?????????????, ??  
??? 1997????????????????????

(中国北京からのニュース:中国は四、五年以内に首都北京市及び周辺地域の嚴重な水不足問題を解決するために、240億元を投資し、節水、汚水処理及び土地保全事業を計画している。現在、北京市の年間水需要量は40億立法メートルであるが、給水量は嚴重に不足している。北京の都市用水は主に官庁ダムと密雲ダムから取水するが、河北省と山西省等上流水源が汚染されたために、官庁ダムは1997年から飲料水とする機能が失ってしまった。)

以上の文章について次の4つの質問をした。

- (1) 現在北京で最も不足しているのは何ですか。
- (2) 国はどれぐらいの投資を計画しているか。
- (3) 北京市及び周辺地域が抱える問題に対する対策の中に無いのは次のどれですか。
- (4) 北京市の年間用水量はどれですか。

質問(1)に対し、以下の4つの答えを用意した。

- A 水                      B 食料品                      C 土地                      D 資金

文章の中に、飲料水、土地、及び金額に関する言葉が全て出ているが、水の方は出現頻度が高く、キーワードとなっている。この質問は割合に回答しやすい。

質問 (2)は数字に対する質問で、以下の4つの答えを用意した。

- A 40 億元                      B 45 億元                      C 240 億元                      D 1997 億元

以上の数字は文章中に全て出ており、且つ出現頻度が同じである。この質問を正解するために、少なくとも数字前後の単語の理解が必要である。

質問 (3)は長い単語と文の理解力を問う質問で、以下のような答えを用意した。

- A 水の節約                      B 汚水処理                      C 土地流失の防止                      D 供水の増加

また、質問 (4)は (2)と同じタイプのもので、次のような答えを用意した。

- A 20 億                      B 40 億                      C 45 億                      D 240 億

同様に、中国人を調査対象とするアンケートも8編の文章を採用した。文章の平均長さは 257 字で、総文字数は 2058 字である。その内、カナ (平仮名と形仮名) 796 個で、漢字、数字、句点等日本語の固有なものでないものは 1262 個文字で、総文字数の 61.3% を占めている。内容で分けると、8 編の文章のうち、自然災害に関するニュース 3 篇 (鳥取地震、東海地方大雨と北海道有珠山噴発)、政治に関するもの 2 篇 (省庁再編及び自民党総裁選挙)、その他の社会ニュース 3 篇である。文章及び質問の例を次に示す。

千葉県警の木更津署は、4月7日、3歳の男の子に対して家族全員で暴行を加え、死亡させた疑いで、同県袖ヶ浦市に住む一家4人を逮捕しました。男の子を虐待していたのは、母親の山本智栄美容疑者 (24歳) と曾祖父と祖母の4人、また、父親の山本健容疑者 (26歳) も直接、暴行には加わらなかったものの、男の子が虐待されているのを知りながら放置していた疑いで逮捕されました。

以上の文章に対し、次の4つの質問を用意した。

( 1 )  
月 7日何が発生したか。

4

( 2 )  
が誰に暴力を加えたか。

誰

( 3 )  
が死んだか。

誰

( 4 )  
が暴力を加えなかったか。

誰

質問 (1)はこの文章が伝える最も重要な情報を問う質問で、以下のような選択を用意した。

- A 曾祖父と祖父母が虐待された                      B 警察が一家 4 人を逮捕した  
C 家族全員が死んだ                                      D 警察が暴力事件を放置した

文章が伝える詳細な情報の理解を把握するために、質問 (2)を用意した。この質問に答えるために、単語だけでなく、ストーリーの理解が必要である。用意した選択は次のとおりである。

- A 男の子が家族全員に暴力を加えた                      B 一家 4人が警察に暴力を加えた  
C 一家 4人が 3歳の子供に暴力を加えた                      D 警察が 3歳の子供に暴力を加えた

質問 (3)も詳細な情報の理解を把握するための質問で、用意した選択肢は次のとおりである。

- A 3歳の男の子                      B 母親                      C 父親                      D 曾祖父

質問 (4)は見かけ上に簡単であるが、日本語が知らない中国人にとって難しい問題である。その理由は日本語の中に、動詞の否定を表す「ない」と言う言葉に漢字を使わないことである。質問に答えるためには、ストーリー全体から推測する必要がある。この質問に対する答えとして、次のものを用意した。

- A 祖父母                      B 母親                      C 父親                      D 曾祖父

以上に示すように日本語と中国語の文章各 8 篇について細かく分析し、問題を設定した。質問の総数は  $8 \times 4 + 8 \times 4 = 64$  個である。

#### 4 調査の実施

アンケート調査は中国と日本において同時に (6 月 23 日から 7 月 20 日まで) 実施した。アンケートの配布は e-mail を最大限に利用したが、利用できない場合、手紙と FAX 及び国際速達を利用した。また、2.4 に述べた要素を考慮し、漢字の働きをより的確に把握するために、調査対象が学生及び大学関係の方に集中されないように、なるべく多くの職業、多様な学歴と年齢層の人に協力を求めた。アンケートの配布と回収結果を表 4-1 に示す。アンケートは回答者の年齢、学歴、職業などの情報が記載していないもの、或いは全ての質問の答えが判読できないものを無効とした。また、年齢、学歴、職業などの情報ははっきり記載しているが、一部分の質問にしか答えなかったり或いは一部分の答えしか判読できないものは、その質問の部分だけを無効にした。そのために各質問の有効率が異なる。

表 4-1 に示すように、アンケートは日本人と中国人に対し各 250 部を配布し、それぞれ 219 部と 110 部を回収した。日本人アンケートの回収率は 88% で中国人アンケートの回収率は 44% である。中国人アンケートの回収率が低い理由は通信の不便さなどによるものと考えられる。

表 4-1 アンケートの配布と回収状況

調査対象	配布数	回収数	回収率	有効数		有効率	
				最大	最小	最大	最小
日本人	250	219	88%	218	215	99.1%	97.7%
中国人	250	110	44%	110	102	100%	92.7%

アンケート回答者の年齢構成、教育歴構成、職業構成をそれぞれ表 4-2、表 4-3 と表 4-4 に示す。また、職業構成については、日中両国の社会制度が異なり職業の分け方が異なるので、比較検討するために職業の分け方について調整した。まずは「会社員」と「公務員」の概念について、中国は社会主義であるので、会社員の殆どは公務員である。そのために、中国では会社員という概念はあまり使わない。しかし、中国で同じ会社の社員であっても一般事務職、工場で働く人 (管理職を除く) 等の単純労働に従事する人を「工人 (労働者)」と称し、管理職、頭脳労働者は「幹部 (管理職)」と称している。大学生及びその以上の学歴を持っている人は全て公務員であり「幹部」である。本調査では、欧米社会のホワイトカラーの概念を用いた。但し、教師は別項とした。また、日本人回答者の内には、主婦も含まれているが、中国で女性は殆ど就職しているので、純

粹な主婦はいない。このために、主婦は「その他」に区分した。即ち、本調査では、「学生」、教師」、「農民」、「ブルーカラー」、「ホワイトカラー」及び「その他」のような職業区分を用いた。

表4-2 アンケート回答者の年齢構成

年齢	日本人		中国人	
	人数	パーセンテージ	人数	パーセンテージ
10代	114	52%	18	16.4%
20代	40	18%	53	49.1%
30代	18	8%	24	22.2%
40代	14	6%	10	9.3%
50代	25	11%	5	4.6%
60代	7	3%	0	0.0%
70代	1	0.5%	0	0.0%
合計	219	100.0%	110	100.0%

表4-3 アンケート回答者の学歴構成

年齢	日本人		中国人	
	人数	パーセンテージ	人数	パーセンテージ
中学校卒	0		12	10.9%
高校卒	28	12.7%	8	7.2%
短大卒	18	8.2%	27	24.5%
大学卒	156	7.6%	57	51.8%
大学院卒	17	71.5%	6	5.6%
合計	219	100.0%	110	100.0%

表4-4 アンケート回答者の職業構成

年齢	日本人		中国人	
	人数	パーセンテージ	人数	パーセンテージ
学生	148	67.1%	41	37.2%
教師	8	3.6%	9	8.1%
労働者	0		14	12.7%
農民	0		5	4.5%
会社員	45	29.3%	26	37.5%
合計	219	100.0%	110	100.0%

## 5 調査結果

回収したアンケートについてトータルの正解率、問題ごとの正解率、回答者構成別の正解率等を統計計算した。その結果を以下にまとめる。

### 5.1 文章ごとの正解率及び トータル正解率

文章ごとの正解率及びトータルの正解率を表 5-1 に示す。表に示すように、日本人回答者では、8篇の中国語文章のうち、最高正解率は 93.1%、最低正解率は 69.3% で、平均正解率は 85.7% である。これに対し、中国人回答者では、8篇の日本語文章のうち、最高正解率は 66.8%、最低正解率は 46.0% で、平均正解率は 55.0% である。

表5-1 アンケート調査結果その 1：文章ごとの正解率及びトータル正解率

調査対象	正 解 率								
	文章 1	文章 2	文章 3	文章 4	文章 5	文章 6	文章 7	文章 8	平均
日 本 人	83.3%	93.1%	69.3%	92.3%	82.0%	92.9%	83.7%	89.3%	85.7%
中 国 人	66.8%	52.4%	56.9%	48.3%	53.9%	59.3%	46.0%	56.4%	55.0%

### 5.2 回答者学歴別の回答率

回答者学歴別の正解率を表 5-2 に示す。

表5-2 回答者学歴別の正解率

学 歴	日 本 人			中 国 人		
	総 数	正解個数	正解率	総 数	正解個数	正解率
中学校卒	0	0	---	379	169	44.6%
高校卒	882	731	82.9%	255	109	42.7%
短大卒	512	438	85.5%	813	437	53.8%
大学卒	1746	1550	88.8%	1717	1009	58.8%
大学院卒	352	333	94.6%	191	122	63.9%

表に示すように、日本人回答者では、大学院以上の学歴を持つ回答者の正解率は最も高く、94.6%に達している。続いて、大卒、短大卒、高校卒で、それぞれ 88.8%、85.5%、82.9% である。また、日本人回答者には中学校卒の回答者はいない。中国人回答者では、大学院以上の学歴を持

っている回答者の正解率は 63.9% で、その次は大卒、短大卒、高校卒と中学校卒の正解率で、それぞれ 58.8%、53.8%、42.7% と 44.6% である。

### 5.3 回答者年齢構成別の正解率

回答者年齢別の正解率を表 5-3 に示す。

表 5-3 回答者年齢別の正解率

年 齢	日 本 人			中 国 人		
	総 数	正解個数	正解率	総 数	正解個数	正解率
20以下	948	759	80.1%	841	461	54.8%
21～30	768	663	86.3%	1349	776	57.5%
31～40	478	442	92.5%	676	396	58.6%
41～50	351	324	92.3%	267	110	41.2%
51～60	723	662	91.6%	128	62	48.4%
61～70	192	171	89.1%	0	0	---
70以上	32	31	96.9%	0	0	---

日本人回答者では、70代以上の人の正解率は 96.9% で最も高い。10代の人々の正解率は 80.1% で最も低い。30代～60代の人々の正解率は殆ど同じで、90%以上である。また、中国人回答者では、30代の正解率は 58.6% で最も高い。その次は 20代の正解率で、同じレベルの 57.5% である。40年代の正解率は最も低く 41.2% である。また、中国人回答者に 60代以上の回答者はいない。

### 5.4 回答者職業別の正解率

表 5-4 は回答者職業別の正解率である。

表 5-4 に示すように、日本人回答者では、教師の正解率は 92.5% で、その次はホワイトカラー、ブルーカラーで、それぞれ 91.7% と 90.6% である。学生の正解率は最も低く、81.4% となっている。また、退職者等を主とする「その他」の正解率は 92.6% で最も高い。中国人回答者では、教師の正解率は 63.4% で最も高い。また、ホワイトカラーと無職を主とする「その他」は 2番に並びし、57.7% となっている。その次は学生とブルーカラーでそれぞれ 56.2% と 49.4% である。農民の正解率は最も低く、36.0% である。

表5-4中国人の回答者職業別の正解率

職 業	日 本 人			中 国 人		
	総 数	正解個数	正解率	総 数	正解個数	正解率
学生	1492	1215	81.4%	1259	707	56.2%
教師	255	236	92.5%	268	170	63.4%
農民	0	0	---	189	68	36.0%
ブルーカラー	96	87	90.6%	415	205	49.4%
ホワイトカラー	1461	1340	91.7%	766	442	57.7%
その他	188	174	92.6%	426	246	57.7%

## 6 結果の考察

### 6.1 日中交流における漢字の働き

表5-1に示すように、219人の日本人回答者では、8篇の中国語文章に関する32問題についての平均正解率は85.7%に達している。110人の中国人回答者では8篇の日本語文章に関する32問題についての平均正解率は55.0%である。両者の平均は70.4%である。本アンケートは4つの答えから1つを選ぶ方式であるので、文章の内容について全く理解できない場合、正解率が25%と考えられる。上述のように本調査により得られた正解率は70.4%で、25%の2.8倍となっており漢字の働きを示すものと考えられる。また、表に示すように、中国人の正解率は日本人より約30%低い。その原因は日本語に特有なものであるカナの影響であると考えられる。中国語にはカナがないため、中国人にとって日本語を読むのは日本人が中国語を読むより難しいと考えられる。

### 6.2 学歴の影響

表5-2では日本人回答者の正解率と中国人回答者の正解率ともに、学歴との良い比例関係を示している。日本人回答者の場合、大学院卒と大卒の正解率の差は約6%で、短大卒と大卒の正解率の差は約3%である。また、高校卒と短大卒の正解率の差も約3%である。これに対し、中国人回答者の場合、大学院卒と大卒の正解率の差及び短大卒と大卒の正解率の差はともに約5%で、高校卒と短大卒の正解率の差は11%である。周知のように、人間の認知、推理能力はその人の知力、身に付けた知識、経験の多さと広さ、日常的に受けた訓練により大きく影響される。学歴の差は主に身に付けた知識の差を反映しており、学歴による正解率の差は知識の差によるものである。

と考えられる。また、中国人回答者の調査結果では、中学校卒の正解率は高校卒よりやや高い結果を示している。「中学校卒」の職業構成は半分以上の55%はまだ「学生」であり、将来は高学歴者となるであろう。これに対し、「高校卒」は全部「ブルーカラー」である。この小さい偏差は次に述べる職業の影響によるものと思われる。

### 6.3 職業と年齢の影響

職業別の正解率の統計結果表 5-3 から分かるように、日本人と中国人ともに「教師」の正解率が最も高く、その次はホワイトカラーと学生である。職業の異同は教育レベル、身に付けた知識の範囲等の異同を反映し、人間の認知、判断、推理能力の差を反映する。また、日本人回答者の場合、ブルーカラーの正解率はホワイトカラーよりやや低いものの、殆ど差が見えない。その理由としてはブルーカラーでも大学の学歴を持つ人も多いことが考えられる。また、表 5-3 は日本人回答者の「その他」の回答率が非常に高いことを示している。その原因は「その他」に分類される方の多くは退職或いはリストラされたホワイトカラーからである。

年齢別の正解率統計結果は、日本人では、70 代以上の回答者の正解率が最も高く、約 97% に達している。その原因は戦前の漢字教育の影響と考えられる。また、30 代以上の回答者は殆ど 90% 以上であることに対し、20 代の回答者の正解率は約 86% で、10 代回答者の正解率は最も低く、80% となっており、現在の若い人の漢字レベルが低下しているかもしれない。日本人回答者に対し、中国人回答者の正解率は 40 代を除き、約 50 数パーセントである。40 代の正解率は 41% で最も低い。40 代の正解率が低い原因は、40 代の中国人回答者の多くは低学歴の「農民」と「ブルーカラー」である。

### 6.4 カナの影響

日本語の特徴の一つは漢字とカナと混合して使うことである。カナは日本語の固有のもので、日本語の経験がない中国人にとっては読めないし、文章を理解する邪魔となる。上述した各項目の統計結果から分かるように、何れの場合、中国人の正解率は日本人より30% くらい低い。その原因はカナの影響と考えられる。

また、日本語の動詞の否定型「...ない」は漢字を使わないので、中国人にとって直接に「否定」の情報が得られない、これも正解率が日本人より低い原因の一つと考えられる。例として、4番目の日本語文章に関する4つの質問の正解率を表 6-1 に示す。4番目の質問は暴力を加えなかった人についての質問であるが、「加える」の否定型である「加えない」は漢字を使わないので、中国人は否定の情報が得られず、正解率はわずか15% で、他の質問の正解率の4割しかない。

表6-1 日本語文章 5 の質問ごとの正解率

質問番号	1	2	3	4
正解率	55.3%	60.0%	63.1%	15.2%

## 7 まとめ及び今後の課題

日中交流における漢字の働きを定量的に把握するためにアンケートによる調査を行った。そして以下のことがまとめられる

中国語を知らない日本人に中国語の文章を見せた後に行った文章の内容に関する質問の正解率は 85.7% である。同様に、日本語を知らない中国人に日本語の文章を見せた後に行った文章の内容に関する質問の正解率は 55.0% である。問題は四分法であるので、両者の正解率は、ともに四分法の平均正解率の 25% より遙かに高く、漢字の働きを示していると考えられる。

回答正解率は学歴、職業及び年齢に大きく影響される。学歴が高いほど回答の正解率が高い。日本と中国ともに大学院卒の正解率が最も高く、それぞれ 95% と 64% である。また、高校卒の正解率は日本と中国はそれぞれ 83% と 43% であり、学歴の影響を示している。職業については、日中ともにホワイトカラーの正解率が最も高く、それぞれ 92% と 58% であり、ブルーカラーの正解率が低く、それぞれ 90% と 50% である。また、年齢代別の統計結果は 40 代及びその以上正解率は高く、それぞれ約 90% と約 50% である。

カナは日本語に固有なものであり、文章の理解に大きく影響する。上述のように、中国人回答者の正解率は日本人より約 30% 低く、その原因の一つとしてカナの影響が考えられる。また、日本語の動詞の否定型「...ない」は漢字がないので、日本語が知らない人にとって理解上の障害となる。

本研究は定量的に漢字の働きを把握する試みとして、文章の選択、質問の方法等方面に改善する余地が残っている。今後、より的確に漢字の働きを把握するためにもっと綿密なアンケート調査が必要と考えている。また、新漢字の影響などについても研究に取り組みたいと考えている。

### 謝辞

留学生である筆者は、特に日本人 250 人からアンケートの回答を得ることは本当に難しいことでした。日興電気製作所の皆様や大学院の諸先輩方にはアンケートの回収に多大なご協力をいただきました。また、漢字の役割について重要な助言をしていただいた NTT コミュニケーションの児玉氏及び多くの方々にご協力いただきました。関口先生には本研究に対して、ご指導をいただきました。この場に借りて心から感謝を申し上げます。





